

四万六千(シマンロクセン)

JJ1SXA/池

観音様のご縁日は毎月「18日」と伝承されてきましたが、これとは別に室町時代(1338年～1573年)以降に「欲日(功德日)」と呼ばれる縁日が新たに加えられてきました。

それが下の表のように1年を通じて「功德日」と呼ばれ、この日に参拝すれば、百日分、千日分の参拝に相当するご利益(功德)が得られると信仰されてきたものです。

中でも7月10日の功德日は、そのご利益が千日分と最も多く、千日詣でと呼ばれていましたが、浅草寺では、享保年間(1716年～1736年)頃より、「四万六千日」と呼ぶようになり、そのご利益も四万六千日分に相当すると言われるようになったものです。(四万六千は、ヨシマンロクセンでは無く、シマンロクセンです)

功德日一覧表

| | |
|--------|--------|
| 1月1日 | 100日 |
| 2月晦日 | 90日 |
| 3月4日 | 100日 |
| 4月18日 | 100日 |
| 5月18日 | 100日 |
| 6月18日 | 400日 |
| 7月10日 | 46000日 |
| 8月24日 | 4000日 |
| 9月20日 | 300日 |
| 10月19日 | 400日 |
| 11月7日 | 6000日 |
| 12月19日 | 4000日 |

それにしても、四万六千日分とは欲張ったものです、ゆうに120年を越しています、0歳児で詣でれば、楽々一生をカバーします。

俗に「観音様」と言っているが、「観世音菩薩」または「観自在菩薩」のことである、他にも色々の呼び名があるようです。

チベット仏教では、チベットの国土と衆生は「観音菩薩の所化」と位置づけられ、最上位に位置する化身ラマのダライ・ラマは観音菩薩の化身とされている。

(5,Jul,2013 記)